

ふるさとへの思いを繋ぐ 牧山コミュニティだより

横浜市 三戸岡 憑之 (1936年生)

コミュニティ協議会発刊の「牧山の歩み」や「コミュニティだより」は、14年という短い期間ながら、青少年時代を牧山・中牧で過ごした私にとって、貴重な存在です。

小学校や役場等があった郷地区には、今ではKlein Gartenという瀟洒な名の施設が整備され、近隣へも貢献の環を広げようとしている地元の方々の意気込みに感服です。

旭川堤の桜の開花に始まる四季折々の思い出は枚挙に暇なし。夏は旭川と共にありました。水泳やキャンプなどで過ごした平素の旭川は穏やかでしたが、先の西日本豪雨のように暴れることもあり、終戦の年の枕崎台風による氾濫被害は忘れられません。

跨線橋などの設置で見違えた「牧山駅」に始まった各地区の「一押し」は、楽しみな一ページ。中牧のそれは「石井八幡宮」秋の大銀杏以外になかったでしょう。境内での遊びや演芸会などが思い起こされますが、この大銀杏には、これまでと同様、世の中の動きをずっと見守っていただいていたものです。

冬の静寂な夜の帳の中、南方向に視ていた高倉山は私にとって心の山。帰省する度に、やさしく「お帰りなさい」と言ってくれているように思えます。

「ふるさとの山に向かひて言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな」まさに啄木の心境です。



4月より「牧タク試験運行」が再開される見込みです。昨春、延期されていた試験運行が始まったばかりで再度の通行止めとなり悔しい思いをしました。

これから一年弱の試験運行中は本運行をより利用しやすい「牧タク」にするための準備期間です。運行日や時刻表などの見直しをするには、実際に利用した方のご意見が重要です。今はご自分で移動できる方も、家族や将来の自分のためにぜひ、一度利用し、「牧タク」へのご意見、ご要望をいただきたいと思えます。

また、各町内会におかれましても利用促進のための施策をご検討いただければ幸いです。
(生活交通を考える会 事務局長 尾崎)



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

誰かの役にたっているとまでは言わなくても自分が何かをすることによって社会や人とつながり、そして周りの人に喜んでもらえる。なんと素敵なことでしょうか。まさに、牧山&クラインガルテン収穫祭がそれでした。どうか2022年も開催されますように！

また、今号では中牧出身で横浜在住の三戸岡様に依頼し寄稿いただきました。
ありがとうございました。
(C.T)